

西インド仏教刻文の和訳

定 方 晟

J. Burgess: Report on the Buddhist Cave Temples and their Inscriptions (ASWI. vol. 4) [以下、Reportと略称する] の目次の Chapter XIV に、下記 (i-xii) のような仏教窟院群の名があげられている。(窟院群の所在地については図1参照。)

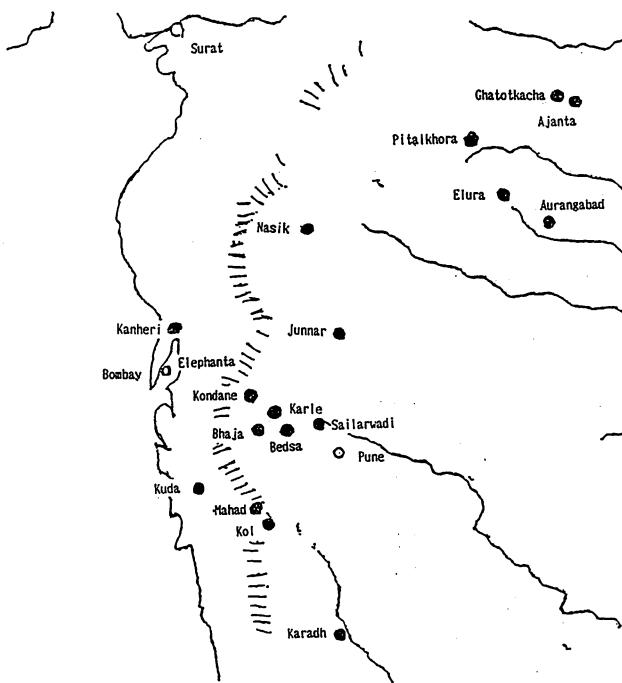


図1 西インドの仏教窟院（黒丸）

- i ●Bhājā
- ii ●Kondāñe
- iii ●Pitalkhorā
- iv Kuḍā
- v ●Mahād, ●Kol, ●Karāḍh
- vi ●Beḍsā
- vii Kārle

viii ●Śailarwāḍi

ix Junnar

x Nāsik

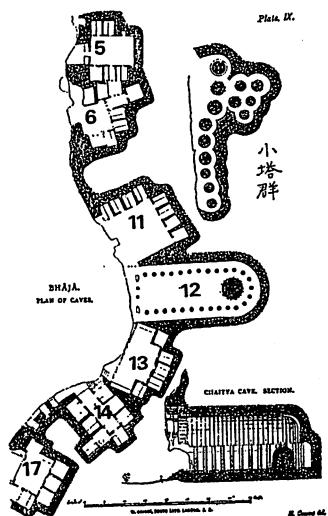
xi Ajanṭā

xii ●Ghaṭotkacha

これら14の窟院群のうち、●印を付した窟院群の刻文を本論でとりあげる。その他の窟院群の刻文はすでに他の機会に単独でとりあげたか、あるいはこれからとりあげようとしているものである。Kuḍā の刻文は本誌前号で、また Ajanṭā, Nāsik, Junnar の刻文はそれぞれ『東海大学文学部紀要』46,47,48輯でとりあげた。本論で*印のついた刻文は Report 以外の文献から補ったものである。刻文テキストの表記上の注意、その他については、前号の拙論冒頭の説明に譲る。

Report における窟院の配列はほぼ時代順である。たとえば Bhājā, Kondāne, Pital-khorā は、その主たる祠堂窟の正面が木造であったこと、すなわち初期の形態を示していることによって、冒頭に配列されている。ただし、どの窟院群も長年にわたって掘鑿されたから、冒頭に配列された窟院群に属する窟院でもすべてが古いとは限らない。逆に、Ajanṭā のように末尾に配列されているものなかにも、Cave X のように古いものがある。Cf. Report, p. 8.

●バージャー (図 2)



No.1 (Cave 17) 静谷 No.179
 nādasavasa nāyasa
 bhogavatasa gābho dānam []
 ボーガヴァタ(村?)のナーヤ(族?)のナーダサヴァの寄進である僧房。

図 2 バージャー窟院群
 (Cave Temples, plate IX)

No. 2 (小塔 [dagoba] に) 静谷 No.183

theranām bhayanta-saṁghadīnānam [||]

長老である大徳サンガディナの塔。

No. 3 (小塔 [dagoba] に) 静谷 No.182

therānām bhayaṁta-aṁpikiñakānām thūpo [||]

長老である大徳アンピキナカの塔。

No. 4 (小塔 [dagoba] に) 静谷 No.181

therānām bhañamta¹⁾ dhamagirinām thūpa [||]

長老である大徳ダマギリの塔。

1) 写真版では bhañamta より bhataṁta であるようにみえる。

No. 5 (小塔 [dagoba] に) 静谷 No.184

therānām bhayaṁta

長老である大徳…の…。

No. 6 (Cave 6) 静谷 No.185

bādhayā hālikajayāyā dānaṁ [||]

ハーリカの妻¹⁾ バーダーの寄進。

1) Report (p.83) は「農夫の妻」とする。

No. 7 (Cave 14とCave 17の中間の水槽の上) 静谷 No.186

mahārathisa kosikīputasa

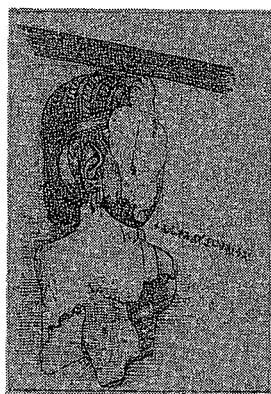
viñhudatasa deyadhama podhi [||]

ヨーシカ族女の子の、マハーラティ出身のヴィンフダタ (=ヴィシヌダッタ) の寄進である水槽。

* Burgess-Bhagvanlal Indraji: Inscriptions of the Cave-Temples of Western India, 1881, no. 8 掲載の刻文。佚名の某により塔 (thuba) が寄進されたことを録する。(静谷 No.186による。)

* Debala Mitra: Buddhist Monuments, 1971, p.151 によると、祠堂窟の木造の梁に二つの短い刻文が見つかったそうである。それは窟院建造時の寄進者の名を記すものであったから、この梁は2100年の風雪に耐えたことになる。

●コンダーネー



No. 1 (祠堂窟の彫像の脇、図 3) 静谷 No.528
kaphasa am̄tevāsinā balakena kataṁ[II]カン
ハ (=クリシユナ) の弟子バラカによりて作ら
れた (彫像?)。

図 3 コンダーネー祠堂窟入口左脇の彫像

(Report, p.9, woodcut No.9.)

●ピタルコラー¹⁾ (図 4)

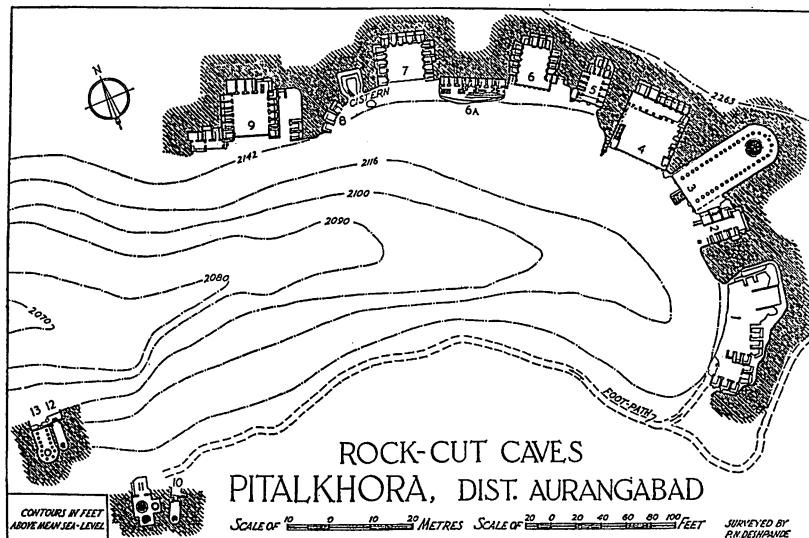


図 4 ピタルコラー窟院群

(Ancient India, No. 15, 1959) より

1) M.N.Deshpande, "The Rock-Cut Caves of Pitalkhora in the Deccan", Ancient India, No.15, 1959 [以下 Deshpande と略称] p.69によると、Pitalkhora は Mahāmāyūri の Pitaṅgalya, Ptolemaios の Petrigala (Petrigala の誤記?) である可能性がある。

No. 1 (Cave 3, 神堂窟内の柱) 静谷 No.749

patiṭhāṇā mitadevasa

gādhikasa kulasa

[thab]o dāna[m]

パティターナ在住の香料商人ミタデーヴァの一家が寄進した柱。

No. 2 (Cave 3, 神堂窟内の柱) 静谷 No.750

patiṭhāṇā saghakasa pu-

tāna ṭhabo dānam []

パティターナ在住のサガカの息子たちが寄進した住。

No. 3 (Cave 4 <図5> 内の僧房入口上部) 静谷 No.751



..... trasa magilasa dānam
[]
.....マギラの寄進。

図5 ピタルコレー Cave 4 の入口

(cf. 刻文 No.3-No.7 Buddhist Monuments : pl.110)

西インド仏教刻文の和訳

No. 4 (Cave 4 の僧房入口上部) 静谷 No.752

..rājavesa...

..王の侍医.....。

No. 5 (Cave 4 の僧房入口上部) 静谷 No.753

rājavejasa vachīputasa magilasa dā[nam]

ヴァチ (=ヴァーツシー) 族女の子であり、王の侍医であるマギラの寄進。

No. 6 (Cave 4 の僧房入口上部) 静谷 No.754

rājavejasa vachīputasa [ma]gilasa dahutu datāya dāna[m] [||]

ヴァチ (=ヴァーツシー) 族女の子であり、王の侍医であるマギラの娘ダターの寄進。

No. 7 (Cave 4 の僧房入口上部) 静谷 No.755

rājavejasa vachī[putasa ma]gilasa putasa datakasa dāna[m] [||]

ヴァチ (=ヴァーツシー) 族女の子であり、王の侍医であるマギラの息子ダタカの寄進。

* Deshpande, p.76 (Cave 4) 静谷 No.756

[dhe]nuk[āka]tasa samasa putena ka-

ṇhena kata¹⁾

デーヌカーカタ出身の、サマサの子カンハ (=クリシユナ) によって造られた。

1)損傷が激しくほとんど読めないようにみえるが、Deshpande は上のように読みだ。

* Deshpande, p.76 (Cave 4, つけ柱) 静谷 No.757

ya bhichuniyā dāna[m] tha[bho]

比丘尼の柱の寄進。

* Deshpande, p.77 (Cave 5 の前庭の丸石) 静谷 No.758

ya aṭhiseniyā

金貸し組合?

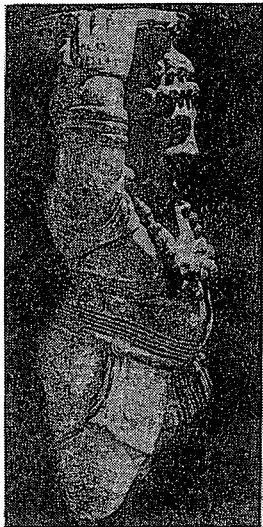


図6 ピタルカラー Cave 3 の前庭の遺物
の堆積から発見された薬叉。手の甲に
刻文がある (Ancient India, No.15, 1959 より)

* Deshpande, p.82. (Cave 3 の前庭の遺物の堆積から発見された薬叉の手に。図6)

kanhadāsena hirānakārena¹⁾ katā

金細工師カンハダーサ (=クリシュナダーサ) によって造られた。

1) Deshpande が記す hirānakārena は誤植であろう。

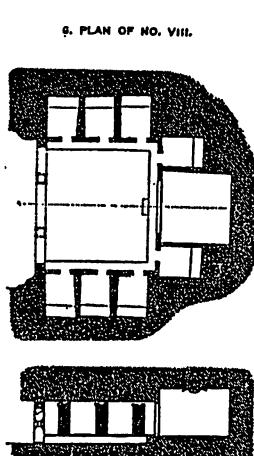


図7 マハード Cave 8
(Report, pl.IX, fig.6)

●マハード

No. 1 (Cave 8, 図7) 静谷 No.563

(1)sidhaṁ kumārasa kāñabhoasa vheṇupālitasa

(2) [e]sa leṇa cetieghara ovarakā ca aṭha 8 vika-
maṇīl) niyu-

(3)taṁ le[ṇa]sa ca ubhato pasesa poḍhiyo be 2
leṇasa

(4)alugānakel) patho ca dato etasa ca kumārasa deya-

(5) dhamam̄ [||]

成就あれ。カーナボーア (カンボージャ?) 族の王子
ヴェースパリタのこの窟院と祠堂と 8 つの小室とが
挙げられる。また窟院の両側の 2 つの水槽と、窟院に
(通じる) 参道も布施される。これはかの王子の寄進である。

1) vikamāṇ と alugānake は意味が不明なので、訳はこの二語を省いておこなった。

西インド仏教刻文の和訳

No. 2 (Cave 27, ベランダ壁) 静谷 No.564

- (1)sidham gahapatisa seṭhisa saṅgharakhitasa putasa vi.....
- (2)vādasiriya deyadhamamāñ leṇāñ cetiakoḍhi¹⁾ pā
- (3)chetāñi yāñi leṇāñ heṭhā gorāva... nañ²⁾
- (4)ti chetehi kare tato cetiasa gadha
- (5)aṭha 8 bhatakarāñmāñikā aṭha 8 koḍhipura
- (6)kāraṇakāraṇe ca leṇasa savenā ka

成就あれ。家長であり組合長であるサンガラキタの息子ヴィ…の（妻？）ヴァーダシリの窟院と祠堂の寄進。…であるところの土地…。…土地によって為し、そのうち祠堂の香料…八(8)（カールシャーバナ？）を、信心の行為(?)八(8)を、コーディブラ…
1) koḍhi が koṣṭha (m. "an inner apartment") と関係があるとすれば、cetiakoḍhi=ceti-eghra (祠堂) (cf. マハードNo.1,line (2)) であろう。しかし、koḍhi が 本刻文line
2) この一行の読みは図版によって多くの訂正をおこなった。

* Report,plate XLVI には上記のほかに、さらに “Fragment at Mahad” が掲載されているが、意味不明で、Reportにも訳がない。

●コール

No. 1 静谷 No.524

gahapatiputasa seṭhisa
saṅgharakhitasa deyadhamamāñ lena[ñ] ॥

家長であり組合長であるサンガラキタの窟院の寄進。

No. 2 静谷 No.525

… upāsakasa duhutuya dhamasiriya sivadatasa bitiyakāya
leṇa deyadhama []

…優婆塞の娘でありシヴァダタの妻であるダマシリの窟院の寄進。

No. 3 静谷 No.526

āghāakasā- gāmikiyasa sivadatasa leṇa deyadhama []
アーガー・アカサー村在住のシヴァダタの窟院の寄進。

●カラード

No. 1 (Cave 47 1) 静谷 No.488

g[o]p[ā]laputasa saṅgha-
m[i]tarasa leṇa deyadhama []

ゴーパーラの息子サンガミタラの窟院の寄進。

1) 47という番号については、cf. Cave Temples, pp.21-22. カラード仏教窟院は三群にわかれ、窟院の総数は60以上になる。

●ペードサー

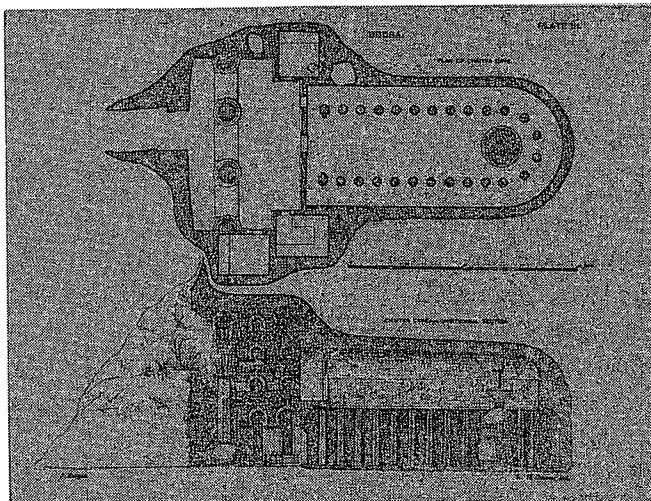


図8 ベードサー洞窟

No. 1 (洞窟〈図8〉のverandahの右端の僧房入口上部) 静谷 No.171

nāsikāto ānadasa seṭhisa putasa pusaṇakasa dānaṁ [II]

ナーシカ出身の、組合長アーナダの息子のプサナカの寄進。

No. 2 (小塔の背後の岩) 静谷 No.172

…ya gobhūtināṁ āraṇakāna peḍapātikānaṁ mārakuḍavāsinā thupo¹⁾

… [aṁte]vāsinā²⁾ bhatāsāla[!ha]mitena kārita [II]

マーラクダに住せし林住者にして乞食者なるゴープーティの塔。…に住む(あるいは、…の弟子?)バターサーラミタにより作らる。

1) Report (p.89, note 6) は Mārakuḍa を Skt. Mārakūṭa ("the devil's peak") に還元し、当山の古名と推定している。

2) vāsinā: mārakuḍavāsini (マーラクダに住む)か。aṁtevāsini (弟子)か。bhatāsālamitena はサンディ (bhata-āsāla-mitena) をあらわすか。

No. 3 (水槽の上方) 静谷 No.173

mahābhoyabālikāya ma[hā]devi- 1)

ya mahārāthiniya sāmaḍinikāya

[de]yadhamā āpadevaṇakasa bitiyikāya [||]

藩王の娘、マンダヴァ族の女（あるいは、大妃）、マハーラタの女、アーパデーヴァナカの妻、サーマディニカーの寄進。

1) madevi: Report は hā を補って ma[hā]devi と読み、「大妃」と訳す。Lüders は man-davi と読み、「マンダヴァ族の女」と訳す。

●シャイラルワディ

No. 1 1) (Cave 1 2) 静谷 No.763

(1) sidham dheṇukākade vāthavasa

(2) hālakiyasa kuṣubikasa usabha-

(3) ḡakasa kuṣubiṇiya siaguta-

(4) ḡikaya deyadhaṁma leṇa saha pute-

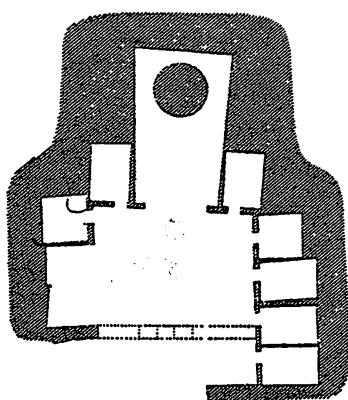
(5) ḡa naṁdagahapatiṇā saho

成就あれ。デースカーカタに住む農民で戸主であるウサバナカの妻シアグタニカーの寄進である窟院。息子で家長のナンダとともに。……とともに。

1) Report (p.92) には、Karle No.19 として掲載されている。

2) この番号は下記 Das Gupta による。

* Das Gupta, EI, XXVIII(1949), p.76f. (Cave 2 図9) 静谷 No.764



(1) sidha || therāṇam bhayata-sihāṇa
ateāsiṇiya

(2) pāvaiti[k]āya ghapa[rā]ya bā-
likā saghāya budha(dhā)-

(3) a ca cetiya-gharo deya-dhamā
māta-pita udisa saha [ca] sa-

(4) vehi bhikhā(khu)-kulehi sahā
ca ācari[ye]hi bhata-vireyehi sa-

(5) māpito

成就あれ。長老・大徳シハ(=シンハ)

図9 シャイラルワディ Cave 2
(Cave Temples, pl, v, fig.5)

の女弟子であり出家者であるガバラーの娘¹⁾、 サガー (=サンガー) とブダー (=ブッダー) の祠堂窟の寄進。母と父のために。一切の比丘族、および阿闍梨²⁾、信仰ある勇者たちとともに完成せらる。

- 1) Das Guptaは「娘_bālikā (skt.bālikā-の斜格) は单数形であるので、サガーにのみかかるとする。
- 2) 「一切の比丘族、および阿闍梨のために」の意かもしない。

●ガトートカチャ

- (1) munir munīnām amaromarāṇā[ṁ] gurur gurūṇām pravaro varāṇā[ṁ |] jayaty anābhogavibuddhabuddhir bbuddhābhidh[āno] ni[dhi]r adbhuṭānā-[ṁ |]¹⁾
- (2) dharmmas tato dharmmavidā praṇītas tathā [ga]naś cāgryatamo gaṇānā-[ṁ |] bhavanti yasmin nihitā[ḥ] supātre kārāpakārās tanayā py[u]dārāḥ [|]
- (3) asti prakāśo diśi dakṣiṇasyā[ṁ] vallūranāmnām dvijasattamānām [|] ā brahmanas sa[ṁ] bhṛtapuṇyakīrttirttir²⁾vamśo mahiyān mahito mahad-bhīḥ [|]
- (4) tasmīn abhūd āha[ta] lakṣaṇānām dvijanmanā[ṁ] [prā] thamakalpikānām [|] bhṛgvatrigarggā[ṅgi]ra[sāṁ] samāno-dvijarśabho yajñā[patiḥ] prakāśah [|]
- (5) tadātmajo deva ivāsa devah kṛti gṛhi nayavān kriyāvān [|] sarājaka[ṁ] rāṣṭram upetya yas[min dha]rmyāḥ kriyā [nā]tha iva pracakkre [|]
- (6) somas tata[ḥ] soma ivā]parobhū[ṭ sa] brāhmaṇakṣatriyavamśajāśu [|] [śru]tismṛtibhyām vihitā[rtha]kārī dvayī[ṣu] bhāryyāsu ma[n]o dadhāra [|]
- (7) sa kṣatriyāyā[ṁ] kulaśilavatyām utpādayāmāsa narendraciḥnām [|] sutaṁ surūpaṁ ravināmadheyām kṛtādhī[patyām] malaye samagre [|]
- (8) dvijāsu cānyāsu sutān udārān sa[ma]stavedeṣu samāptakāmā[n |] vall[ū]ranāmā diśi dakṣiṇasyām adyāpi yeśām vasati[r dvijānām |]
- (9) raves sutobhūt pravarābhīdhāna[ḥ] [śri-rā]manāmātha babhūva tasmāt [|] tadātmajah kīrttir abhūt sukīrttir bbabhūva ta[smād] atha [hasti]bhojaḥ [|]
- (10) [vā]kāṭake rājati devasene gunai[ṣikośo] bhuvi [ha]stibhojaḥ [|] adyāpi .tasyābhīmana [|]
- (11) dhīreṣu dhīmatsu sahotthiteṣu guṇānviteṣu [|]

- ... [yam] nṛpater ya [॥]
 ⑫ yasyāsanārddha[ṁ] surasā
 ⑬ atha devarājasya [?]
 ⑭ śasikaradhvavala [?]
 ⑮ atha guṇa [?]
 ⑯ tasyātmajesu
 ⑰ phale [makhilamila?]
 ⑱ samyagvibhāvī

- (1) 牟尼のなかの牟尼、不死者のなかの不死者、師のなかの師、勝者のなかの勝者、享樂を離れて悟りを覚ったひと、ブッダの名をもつひと、奇跡の藏であるひと、(かれは)勝利する。
- (2) また、法の知者によって説かれた法は(勝利し)、同じく集団中の最高の集団(=サンガ)も(勝利する)。この妙器(=サンガ)のうちに置かれたひとは、悪しき行為をおこなった息子たちですら高貴なものとなる。
- (3) 南の地方にヴァルーラという名の、バラモン中の最高者たちの、光(かがやく家系)があった。梵(の時代?)から積み集めた福徳と栄光を有し、偉人たちによって偉大とされた偉大な家系であった。
- (4) この(家系)に、美德を知られた太初のバラモンたち、すなわちブリグ・アトリ・ガルガ・アンギラス(等のバラモン)たちに等しいバラモンの第一人者、光り輝くヤジュニヤ〔パティ〕がいた。
- (5) その息子にデーヴァ(=神)のごときデーヴァがいた。徳高き家長であり、政治力をもち、宗教儀式に忠実であった。王制国家を手中にすると一その(国家)において(かれの)政治は法に則っていた——教師のごとく振る舞った。
- (6) かれにソーマ(=月)のごときソーマが生まれた。かれ(ソーマ)は、天啓聖典・伝承聖典に定められた規則を実行し、バラモンとクシャトリー双方の家柄の妻たちに心を配った。
- (7) かれは家柄よく行い正しいクシャトリーの(女)から、王の印をもつ姿よきラヴィという名の息子を生んだ。(ラヴィは)全マラヤに主權を及ぼした。
- (8) また他のバラモン女たちにおいて高貴な息子たちを(生んだが、かれらは)全ヴェーダ聖典に熱意を抱いた。これらヴァルーラの名をもつバラモンたちの存在(vastati, "staying")は今日なお南の地域に(続いている)。
- (9) ラヴィからプラヴァラという名の息子が生まれた。また、かれからシュリーラーマという名の(息子が)生まれた。かれの息子にキールティが生まれ、キールティ(=栄光)に満ちていた。そして、かれからハスティボージャが生まれた。
- (10) ヴァーカータカ家のデーヴァセーナが王であったとき、ハスティボージャが地上

において徳の蔵となった。…

- 1) 韻律 (metre) は upajāti (Report,p.139,note 5)。
- 2) rtirttirは重複誤記。末尾のttirは省くべきである。

(東海大学文学部教授)